

現代社会の諸事象を多面的・多角的に捉え、 自分の考えを表現できる生徒の育成

—多様な観点を持つ資料を読み取るためのワークシートの工夫とグループの発表活動を通して—

特別研修員 公民 古畑春樹 (高等学校教諭)

【生徒の実態】

- ・生徒は知識の習得のみにとどまることが多い。
- ・自分の考えを表現することが苦手である。

【授業実践】

《学習課題》社会保障制度から政府の在り方を考える

《手立て1》多様な観点を持つ資料の提示

多様な観点を持つ資料の読み取り

- ①日本の社会保障の資料
- ②諸外国の社会保障の資料
- ③アメリカ(小さな政府)の資料
- ④スウェーデン(大きな政府)の資料

《手立て2》読み取った内容を多面的・多角的に考察するためのワークシートの工夫

①手立て1で読み取った内容を参考にして、スウェーデン(大きな政府)・アメリカ(小さな政府)の長所・短所を「生活・福祉面」「財政面」「その他」の観点からワークシートにまとめる。

②①に基づいて「日本は大きな政府と小さな政府のどちらに移行すべきか？」を考察し、ワークシートに根拠とともに記述する。

《手立て3》考察した内容をグループ内で発表する場の設定

①手立て2での「日本は大きな政府と小さな政府のどちらに移行すべきか？」について、グループ内で発表する。

②他者の意見に対する自分の意見をまとめる。

手立て2で使用したワークシート

②大きな政府と小さな政府の長所・短所をまとめてみよう!

制度	大きな政府	小さな政府
例	スウェーデン	アメリカ
生活・福祉面	教育費、医療費、福祉に内や費用は無料 所得格差が小さい、機会均等 女性の就業率が低い。	自由に使えるお金が多い。 富裕層は充実したサービスを享受している。
財政面	政府の役割が大々的、所得の再分配が大きい。政府の負担が大きい。	国の支出は少ない。 国民の負担が大きい。
他	安心感がある。	競争力がある。労働賃金が上がる。
生活・福祉面	給付の割合が高い。 物価は比較的安い。生活費も比較的安い。 失業率が低い。生活格差も小さい。 子育てと教育への負担が大きい。	生活面での原則は、お金の使い道について自己責任が大きい。 貧困層は十分なサービスを享受していないため、格差が大きい。
財政面	国の支出が増える。 国民の負担が大きい。	政府の負担は少ない。 所得の再分配が少ない。
他	労働賃金が上がる。	生活に安心感がある。

※所得の再分配・・・累進課税制度と社会保障制度により、自然に所得格差が是正されること。
③あなたなら大きな政府と小さな政府のどちらへの移行を進めますか？

結論	大きな政府	小さな政府
理由	経済力があがる。ある程度政府のサービスがほしい。自由にお金を使いたい。どの節自己責任の割合も大きい。自己責任は入ったほうがいい。	自由にお金を使いたい。自己責任は入ったほうがいい。



グループ発表後に意見を再考

自分とは違う他者の考え (大きな政府・小さな政府)	その他者の考えに対する自分の意見 (大きな政府・小さな政府)
日本の給付の割合が高い。労働賃金の割合が上がる。	自分の意見のこと考えを再考して、将来にわたって生活に有利な意見。

【目指す生徒像】

現代社会の諸事象を多面的・多角的に捉え、自分の考えを表現できる生徒

【成果】

どの生徒も学習課題に対して多面的・多角的に捉え、積極的に発表することができた。また、他者の考えに対する自分の意見もよくまとめられていた。

【課題】

発表した内容をクラス全体で共有すると、一層多面的・多角的な捉え方ができるようになると考える。